

平成 28 年度 福井大学地域貢献事業支援金
てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」

事業責任者： 西村高宏（医学部・准教授）

概 要
<p>本事業の目的は、医療、福祉、介護、子育て、教育（芸術文化）など、いま、地域が取り組むべき課題、とくに「医療とケア」に関わる課題を毎回「テーマ」として取り上げ、「哲学的対話実践（哲学カフェ）」の手法をもとに</p> <p>(1) 学生、教職員、一般の参加者（中・高校生、他大学の学生、高齢者などすべて）どうしによる〈対話〉という営みを通じて、地域に生きる一市民として、それらの課題（「テーマ」）に関する自分自身の考えを逞しくできるようにすること、</p> <p>(2) 大学と地域、さらには異なった世代・専門領域間のあいだを繋ぐ積極的な〈対話の場〉を拓いていくことで、地域の市民性（教育）を下支えし、根付かせ、そこから「医療とケア」に関わるあらたな価値観を生み出していくための「地（知）の拠点」として展開させていくことである。</p>
<p>関連キーワード 哲学的対話実践、医療、ケア、福祉、地域</p>

事業の背景および目的

本事業の目的は、医療、福祉、介護、子育て、教育（芸術文化）など、いま、地域が取り組むべき課題、とくに「医療とケア」に関わる課題を毎回「テーマ」として取り上げ、「哲学的対話実践（哲学カフェ）」の場を拓くことで、自分自身の考えを逞しくし、医療とケアに関わる新たな価値観を生み出していくことを目指すものである。

事業の内容および成果

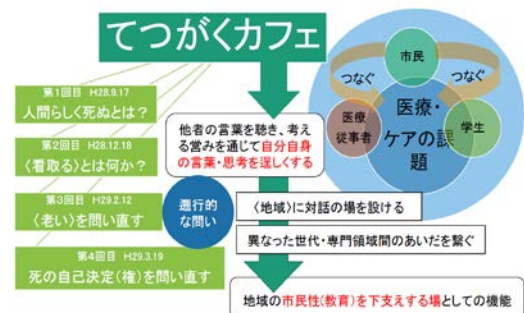
医学部附属教育支援センターとの共催で4回実施した。実施概要は以下の通りである。

- ・ 第1回目：9月17日（土曜日）、大学連携センター「Fスクエア」にて開催。テーマは、「人間らしく死ぬとは？」。東京や金沢からの参加者もあり、全体で20名程度の参加者。
- ・ 第2回目：12月18日（日曜日）、大学連携センター「Fスクエア」にて開催。テーマは、「〈看取る〉とは何か？」。少しずつ活動が認知され始めたのか、報道機関も含め、30名程度の参加があり、活発な〈対話〉をとおして、それぞれの考えを逞しくする場となった。
- ・ 第3回目：2017年2月12日（日曜日）、大学連携センター「Fスクエア」にて開催。テーマは、「〈古い〉を問い直す」。悪天候の影響もあり参加者は8名だった。NHK福井や福井新聞の取材を受けた。
- ・ 第4回目：2017年3月19日（日曜日）、大学連携センター「Fスクエア」にて開催。テーマは「死の自己決定（権）を問い直す」。中学生から高齢者まで幅広い年代の方にご参加いただいた。参加者は30名。

【成果】

一般市民や医療従事者、学生など立場や世代を超えて、他者の言葉を丁寧に聴き、自分の考えを述べるという経験を通して考えることの難しさや楽しさを味わいながら、既存の価値観や考え方が変化していく様が見受けられた。

一般市民にとっては、医療やケアにおける課題を、自分の言葉を通して考える経験を積むことで、医療サービスを享受する立場から、自律的な存在へと変化を遂げる可能性を有していると言えるだろう。また、医療従事者や学生にとっても、地域で暮らす一般市民が、どのような価値観や考えを持っているのか知る機会となり、地域における医療従事者の役割を再認識することに繋がると考えられた。



参考文献・添付資料および特記事項等

〈取材関連〉

- ・ NHK福井、FM福井、福井新聞より取材を受けた。本事業に関する高い関心があることが窺えた。今後も、本事業を通して、一般市民と専門職との場を繋ぐことになるよう実施していく予定である。

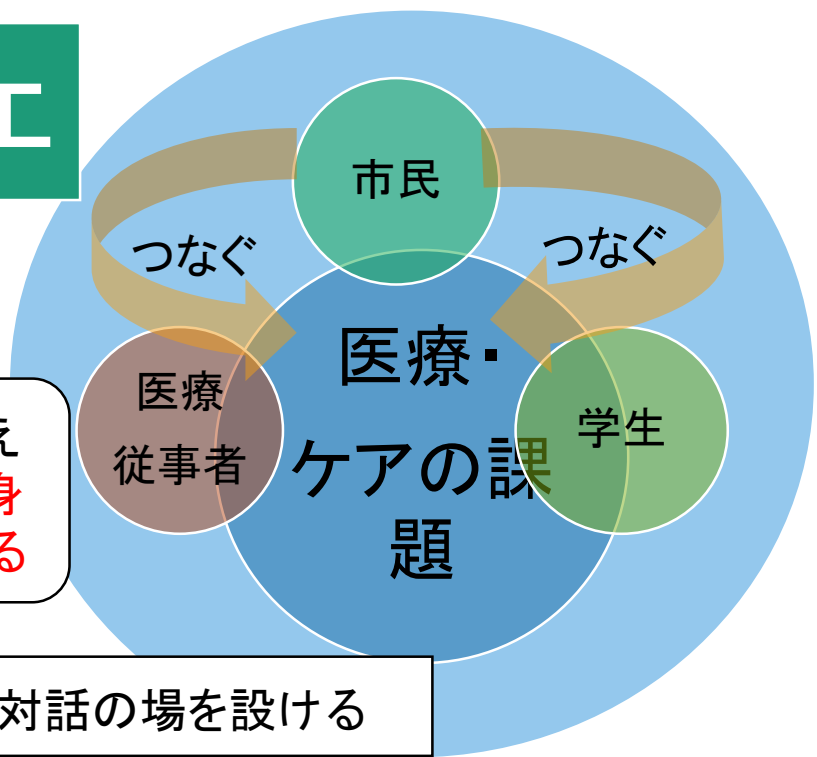
平成28年度 地域貢献事業支援金

事業名称:てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」

事業責任者:西村高宏(医学部・准教授)

学外協力者:近田真美子(東北福祉大学・講師)

てつがくカフェ



第1回目 H28.9.17
人間らしく死ぬとは？

第2回目 H28.12.18
〈看取る〉とは何か？

第3回目 H29.2.12
〈老い〉を問い直す

第4回目 H29.3.19
死の自己決定(権)を問い直す

他者の言葉を聴き、考える
営みを通じて**自分自身**
の**言葉・思考**を逞しくする

遡行的
な問い

〈地域〉に対話の場を設ける

異なった世代・専門領域間のあいだを繋ぐ

地域の**市民性(教育)**を下支えする場としての機能